

た や じゅうあとなわほりず 田屋城跡縄張図

補助的な役割を持つと
考えられる、捨て曲輪



ほりきり たてほり
食い違い堀切・堅堀



しゅかく
主郭入口
つちますがたこくち
(内枡形虎口を
設ける)



くるわ
北の曲輪
きた まる
(伝北の丸)



どほし
土橋をもった堀切・
たてほり
堅堀(左側)・連続堅堀(右側)



※連続堅堀

しゅかく ほんまる
主郭(伝本丸)



おおてぐち かさねますがたこくち
大手口(重枡形虎口を設ける)



たてほり
南面の堅堀に
対応する突出部を
2カ所設けた、
横矢掛けの構造

くるわ ぐち まる
三の曲輪(伝口の丸)

(中央を二分する
どるい
土塁を設ける)

くるわ おく まる
二の曲輪(伝奥の丸)



→ 至 森西集落 →

登山口

《図中の色分けについて》

- 部分…曲輪。山の斜面を削り、削った土を盛ることによってつくった平らな面の周囲を、どるい土塁(土を盛ってつき固めた土手)で囲み、虎口(防御された出入り口)を設けるなど、敵の侵入を防ぐ構造になっています。
- 部分…堅堀は斜面に縦方向に掘られた空堀で、攻め手の自由な横移動を妨げます。堀切は尾根筋を断ち切り、尾根伝いの移動を防ぎます。
- 部分…土塁。曲輪を作るために削った土や、堀を作るために掘った土などを盛り上げて、敵の侵入を防ぐために築られました。

1:2500

100m

200m

300m